

実況中継「土曜講座」

第2号

2026年5月23日発行

市川学園5月16日の土曜講座 於：北館1F多目的ホール

盛口 満 先生

身近な自然を見る眼鏡

沖縄大学教授



盛口 満 先生のご紹介

- 1962年 千葉県生まれ
- 1984年 千葉大学理学部生物科卒業
- 1985年 自由の森学園中学校・高等学校教諭
- 2007年 沖縄大学人文学部こども文化学科に准教授として着任
- 2019年 沖縄大学学長に就任
- 2021年 沖縄大学人文学部こども文化学科教授（現職）

主な講義内容の紹介

2026年最初の土曜講座は、沖縄大学教授による、知っているようで皆あまりよくわかっていない、身近な自然や動物についての講演でした。

ライオン・キリン・パンダなどの動物は本来日本に生息しておらず、日常的に目にする動物ではありません。しかし、キャラクターのモチーフとして使われていたり、幼稚園のクラス名に使われていたりすることも多い、皆が知っている「身近な」動物と言えます。

一方で、日常的に目にすることも多い動物や昆虫の姿を、私たちはどれだけ理解しているのでしょうか。盛口先生が、教え子に描かせたアリの絵を見せてくださったのですが、体のバランスがおかしかったり脚の本数が違ったりとほとんど別の生き物になっていました。先生は他にも色々な骨や標本を持ってきてくださったのですが、細長い頭の骨を見ても何の骨だかわからず、答えを聞いてみると驚いたことにブタの骨でした。これは、絵などに描かれているブタが丸い体をしていることからそのイメージが先行して自然な形が印象に残っていないのだろう、と先生は分析しています。

人間は物事をそのまま見るのではなく、それぞれ異なる「常識」という枠の中で見ている、と先生は仰いました。身近なものがどのように見えるのか、自分の意識を変えれば新たな一面が見えてくることでしょう。



受講レポートから

- 自分が知っていると思っていた自然について、実は全然知らないことがあるとわかった。夜間学校に通うおばあさん、おじいさんとの交流から戦争時の感覚と今の違いや、戦争の厳しさを知り、戦争時の暮らしの状況を学ぶことができて貴重な体験になった。（中1女子）
- 私は生物部に所属しており、生物が大大好きです。千葉から出て採集をしたり、直接自分で骨格標本などを見たりできないので、沖縄



での「身近な生物」や動物を見る目、様々な専門家の方の視点を知れて楽しかったです。貴重な体験を本当にありがとうございました。

（中2女子）



- お話がとてもおもしろくて、実際にいろんな動物の骨を生で見られてうれしかったです。骨からその動物のくらしだけでなく、歴史もわかるのがおどろきでした。ブタの骨など自分が想像していたもの

かなり違って驚き、常識や先入観のおそろしさを感じました。また、ゴキブリについてこれほど知ることができたのははじめてで、少しゴキブリの印象がよくなったような気がします。（中3女子）

- 様々な動物の本物の骨を見せてくれたので、イメージがわきやすかったです。話の中に笑える点が多く、ゼミの生徒の具体的な話も多かったのでとてもわかりやすかったです。今までは、自然は当たり前にあるもので考えたことはなかったが、見方によって様々な見え方があることがわかり、身近な自然にも目を向けてみようと思いました。（高1男子）



- 自分の好きなものに夢中になる「生き物屋」の皆さんのことがとても羨ましく感じました。生き物は好きなので、ときどき周囲を観察することがあるのですが、今日の講座を受け、いつもの観察ではわからないような、もっともっと深いところを知りたいという欲が生まれました。骨の形から生活を推測するというのもとても楽しそうで、自分もやってみたいです。いつか自分で森などに行って周囲の観察をしながらサバイバルをしてみます。日常生活で見ることができないものを見られて嬉しかったです。貴重な経験をありがとうございました。（高2男子）



- 身近にいる動物や、自分が知っていると思っていた動物について、案外知らなかったことが多く、笑いと驚きの連続でした。自分にとって当たり前の世界、身の回りにいることが当たり前の物が、実は見えていない、ということにはっとさせられました。他者からの視点を知ること、知らないことを知ろうとすること、新しい自分に会うために学ぶこと、これは生物学だけでなく、生きる上でとても大切ですし、先生のように素敵な人生を歩むためのカギになるのかな、と感じました。（高3女子）



（文責：藤田 祐輔 先生）